

《北海道 今月のイベント》 **五稜星の夢（ほしのゆめ）イルミネーション**（12月1日～2月29日 函館市）

—冬の五稜郭公園の堀が約2000個の電球で彩られ、美しい星形が浮かび上がる。公園の周遊路を散策しながら楽しむほか、五稜郭タワー展望台から見おろすのがおすすめ。（函館市公式函館イベントサイトより引用）



## INDEX

- 3 印刷燦燦
- 4・5 令和元年度第4回理事会開催される
- 5 令和2年新春経営者研修会「BCP研修会」案内
- 6・7 2019全印工連フォーラム「全印工連メッセージ」
- 7 北海道印刷関連業協議会令和2年新年交礼会案内
- 8~10 北海道印刷関連業協議会役員会で情報交換
- 10 北海道産業貢献賞受賞者

### 北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル

TEL.011-595-8071 / FAX.011-595-8072

[Website] <http://www.print.or.jp> [E-mail] [info@print.or.jp](mailto:info@print.or.jp)



P-00023

この印刷物は、CSRに取り組み印刷会社が製作した印刷物です。

# 印刷 燦 燦

## 令和の時代が平和と希望の輝く日本を願って

私は、昭和・平成そして令和の時代を迎えました。

昭和23年から始まるベビーブームの時は、200万人以上の出生数がありました。

その人々（昭和23年生まれ）が、今年70歳を迎えて、これからは毎年70歳になられる方々が200万人以上増加して行きます。

今年の出生数は、90万人を下回る可能性があり、少子高齢化が急速に進んで行きます。

今、一部の企業と自治体は、出産祝い金制度を実施しているところもあります。

第1子30万円、第2子60万円、第3子100万円、第4子150万円、第5子200万円としている企業（住友重機、パナソニック、三洋電機など）があります。

こうした手厚い「出産祝い金」を支給している企業が少なくありません。

日本全体で出生数を増やす努力をし、人口減少を止めて明日の日本の存立のためにも力を合わせて協力し、輝く日本（令和の時代）にと願っています。

北海道印刷工業組合 監事 **加藤 憲一**  
有限会社加藤印刷 代表取締役

# 令和元年度第4回理事会開催される

令和元年度第4回理事会が、10月18日午後1時30分から、札幌市中央区のかでる2・7で、理事10人と監事1人が出席して開催され、次期理事長推薦委員会の設置、創立80周年記念表彰選考基準などを決定した。

**理**事会は、岸理事長のあいさつの後、定数報告が行われ、理事長を議長に議事に入った。

最初に、報告事項として、(1) 事業実施状況について、北印工組・全印工連・関係団体に大別して、8月に開催された第3回理事会以降の活動状況が説明された。

(2) 財務状況について、9月末（中間決算）の貸借対照表、損益計算書、予算対比表、賦課金納入状況について説明され、理事会に先立ち、細木・加藤監事による中間監査が行われ、処理・内容は適切である旨の監査報告をいただいたことが報告された。

次に、議事に移り、(1) 令和元年度下期事業スケジュールについて、組織の拡大、広報活動の強化、未来を創る業界運動の展開、共済事業への加入促進、福利厚生事業の実施、組織・財政状況の検討、創立80周年記念誌編纂の準備、第32回北海道情報・印刷文化典札幌大会、組合創立80周年記念事業の準備を柱としたそれぞれの実施事業の内容、実施スケジュールについて説明され、承認された。

未来を創る業界運動の展開では、全印工連特別ライセンスプログラムについて説明され、普及のための啓発を行っていくこととした。

共済事業の加入促進では、印刷ミスによる刷り損じを補償するプリントリバース保険と印刷ミスにより生じた顧客から経済的損害を賠償するビジネス総合保険についての情報提供が行われ、次回理事会までに保険料等を試算した資料を準備することが説明された。

(2) 委員会の活動状況について、各担当委員長から活動状況について説明が行われた。

## ①組織共済委員会（植平委員長）

- ・全印工連で新しい共済として介護保険を検討している。
- ・組合員加入促進では1社が新しく加入した。
- ・共済の加入促進を継続中である。
- ・2月に委員会開催を予定している。

## ②環境労務委員会（大和委員長）

- ・VOC警報器の普及を図るため全印工連で動画を作成予定である。
- ・次回地区協前に委員会を開催する。

## ③経営革新マーケティング委員会（岡部委員長）



- ・事業承継支援センターの活用を促進していく。北海道は相談件数の目標が2件であるが、未だ0件であるので、各支部でピーアールをお願いしたい。
- ・勝ち残り合宿ゼミが、12月13日～14日に埼玉県で開催されるので参加募集を行っている。

## ④教育研修委員会（西山委員長）

- ・DTP技能検定で各社において、技術レベルの差を無くすよう全印工連で標準化セミナーを開催する予定がある。
- ・全印工連特別ライセンスプログラムの今年度新規契約目標が北海道は8本であるが既に38本の契約があり目標をクリアした。

## ⑤青年部委員会（矢吹委員長）

- ・全青協ブロック協議会を東北地区と合同で明日開催する。東北地区から10人が参加予定であり、北海道は札幌支部、旭川支部、十勝支部と稚内から17人が参加予定になっている。

(3) 令和元年度委員会体制について、苫小牧支部、南空知支部に引き続き委員の推薦を依頼するとともに札幌支部の委員を増員していくこととした。

また、下期北海道地区印刷協議会までに各委員会を1回以上開催することとした。

(4) 次期理事長推薦委員会の設置について、理事長候補者の選出手順（内規）に基づき、理事長推薦委員会設置し、第1回委員会を令和2年1月8日12：00から札幌グランドホテルで開催することを決定した。

次期理事長推薦委員会委員は、大和副理事長、植平旭川支部長、米澤小樽支部長、松井オホーツク支部長、岸札幌支部長、角十勝支部長、山田苫小牧支部長、阿曾沼南空知支部長、西山理事の9人を選出した。



(5) 令和元年度第5回理事会、第2回経営者研修会について、第5回理事会を令和2年1月8日13:00から、第2回経営者研修会を新春経営者研修会として同日14:15からBCPをテーマに「BCP研修会～BCPの概要・必要性」として開催することが決定された。

本研修会は、北海道中小企業団体中央会「令和元年度BCP個別策定等支援事業」として実施する。

日 時：令和2年1月8日(水)

会 場：札幌グランドホテル

スケジュール：12:00～12:50/次期理事長推薦委員会

13:00～14:00/第5回理事会

14:15～16:15/新春経営者研修会

テ ー マ：「BCP研修会～BCPの概要・必要性」

講 師：戦略経営ネットワーク協同組合  
代表理事 赤羽幸雄氏（防災士）

(6) 第32回北海道情報・印刷文化典札幌大会、組合創立80周年記念事業について、実行委員会体制と80周年記念表彰の候補者選考基準を過去実施した50年・60年・70周年記念表彰と同基準にすることが決定

され、それぞれに下付の依頼を行うこととした。

[組合創立80周年記念表彰候補者選考基準]

北海道経済産業局長表彰

理事長を歴任した者

北海道知事表彰

副理事長を歴任し、且つ、顧問、相談役、理事、

監事を通算して15年以上歴任した者

北海道中小企業団体中央会会長表彰

顧問、相談役、常任理事、理事、監事を通算して

20年以上歴任した者

全日本印刷工業組合連合会会長表彰

顧問、相談役、常任理事、理事、監事を通算して

15年以上歴任した者

(7) 新規加入組合員の承認について、1社の組合加入を承認した。

株式会社旭川田中シール印刷 旭川支部

令和元年8月1日加入

その後、各支部の活動状況について支部長から報告が行われ、理事会を終了した。

## 令和2年新春経営者研修会

# 「BCP研修会～BCPの概要・必要性」のご案内

昨年9月の北海道胆振東部地震と全道域に及んだ停電の発生を受け、さまざまなリスクに備えるための危機対応能力を強化し、継続的な企業活動を行っていくためのBCP(事業継続計画)策定の必要性がより一層高まっている。

また、「中小企業の事業活動の継続に資するための中小企業等経営強化法等の一部を改正する法律」(中小企業強靱化法)が、本年7月に施行され、同法に基づき中小企業が行う防災・減災の事前対策に関する計画の認定制度が創設されている。

**北** 海道印刷工業組合では、このような状況を踏まえ、令和2年新春経営者研修会として「BCP研修会～BCPの概要・必要性」を開催する。

胆振東部地震を契機にBCPの策定について関心はあるが、BCPの詳細な内容・取組方法が分からない

組合員・賛助会員の皆さんにBCPについての理解を深めていただき、さらに具体的な取り組み方、整備体制の整え方などを習得していただき、地域に密着した印刷企業としての安全性・信頼性を高め、企業の持続発展に繋げていただくことを目的としている。

記

日 時 令和2年1月8日(水) 14:15～16:15

会 場 札幌グランドホテル (札幌市中央区北1条西4丁目 電話011-261-3311)

テ ー マ 「BCP研修会～BCPの概要・必要性」

講 師 戦略経営ネットワーク協同組合 代表理事 赤羽幸雄氏 (防災士)

受 講 料 無 料

定 員 50人 (申込先着順とし、定員になり次第申込受付を終了する。)

受講申込 北海道印刷工業組合ホームページから受講申込書をダウンロードのうえ、申し込みください。

【URL】<http://www.print.or.jp/training/conference2020.html>

# 2019全印工連フォーラム 「全印工連メッセージ」

## 印刷業界におけるデジタルトランスフォーメーションの実装による利益の最適化

2019全印工連フォーラムが、10月4日午後1時から、大阪市中央区のホテル日航大阪で全国から組合員310余人が参加して開催され、理事長会・各委員会に続いて全体会議が開催され、臼田会長が「全印工連メッセージ」として全国の組合員に向け、中小印刷業界の生き残りに向けて、力強く声明を発信した。

以下、メッセージの抜粋を紹介する。

### 全印工連メッセージ

全日本印刷工業組合連合会 会長 臼田真人氏



臼田真人氏

**皆**さんこんにちは。今日は全印工連フォーラムに300人を超える多くの方にお集まりいただきましたことに心より感謝申し上げたいと思います。また、先の九州北部の豪雨、そしてまだ記憶に新しい千葉県下

総の台風被害、昨日も高知で相当の雨が降りまして、今朝もニュースで千葉の鴨川市がかなりのところで冠水している、地方でさまざまな災害が起きています。大変ご苦労されています我々の仲間もいます。改めまして心よりお見舞いと一日も早い復旧を祈念したいと思います。また、日頃より本日お集まりの皆さん、各県工組理事長の皆さんを筆頭に全印工連の事業に際しまして多大のご理解ご協力を賜っていますことをこの場をもって厚くお礼申し上げます。

只今、内藤さんから働き方改革に関するさまざまなご案内、またご提案等をいただきました。今、私たち全印工連では、働き方改革というタイトルに幸せを付けて、印刷産業独特の特性を活かした働き方改革を何とか分かり易いかたちで全国の組合員の皆様にお届けしようと現在事業を進めている最中です。かくいう私も実は産業能率さんに、うちの会社自体2年間、過去にコンサルを受けていまして、相当数の事業もしくは業務を省き効率化を進めています。働き方改革を一

言でいうと、どうしても政府の言っている働き方改革イコール時間短縮というかたちになっています。昨年の高知大会のなかでもお話をさせていただきましたが、単純に時間短縮をして、そして効率化のみを図ったときに私たちの印刷業は間違いなく売上げが下がります。時間短縮をして作業現場を止めたら売上げは下がります。従いまして、社会で言われている、いわゆる表向きだけの働き方改革をいわずらに導入することによって、その会社、企業の力が削がれる。こういった方向性でのリーディングは、私ども全印工連では全くの方向違いということで、改めまして今、プロジェクトチームの方でこの印刷産業の特性を活かした幸せな働き方改革をステップ5まで予定して進めさせていただいています。この後も業務革新のステップが終わった後、このステップ4業務革新をその後継続させていくためには、さらにもっと重要なプロセスが必要になってきます。これが何かというと新たな働き方改革に準拠した人事考課制度、また、その人事考課制度、働く社員がやる気を持って職務に付けるようなそういった給与規程制度、この人事考課制度と給与規程制度、これがセットになっています。これはまだその後の政策課題になっていますので、是非、その完結のところまでご期待いただきたいと思います。

今年度の全印工連フォーラムのポイントは、2点です。

まず、1点は、この後に時間をいただき説明をさせていただきます全印工連アドビ特別ライセンスプログラ

ムであります。こちらにも先にご案内のとおり漸く担当役員の尽力により新たな制度が立ち上がり、そしてアドビ社との契約まで結びつくことが可能となりました。この件について、この後の説明についてご理解いただき、また何かご質問があれば忌憚なくご質問をいただき本日ご理解をいただいたうえで、是非、改めてのご契約お申込みをお願いしたいと思います。

そしてもう1点でございます。これは、私が今年度期首に全印工連総会のなかで47都道府県の理事長の皆様を前に、今年度進めていきたい全印工連の事業として、この先10年、20年、30年、この国における特に中小・小規模の印刷産業をどのようなかたちで持続していくのか、持続可能な経営をしていくのか、こういったことのビジョンを作成したい。ついては、そのためのビジョンについては、「生産的な破壊」。この言葉を使わせていただきました。先ほどの内藤先生のお話のなかにスピードの経済、そして連携の経済という言葉が出て参りました。我々、日本の中小・小規模印刷業界がこれから先、生き残る一つのキーワードは「デジタルトランスフォーメーション」であります。デジタルトランスフォーメーション、全印工連、最近カタカナが多くてよく分からないという方もいらっしゃるが、ググってください。直ぐ出ますから。そして、間違いなく皆さんにご理解いただきたいのは世の中では短縮して、デジタルトランスフォーメーションを「DX」としています。これは今後、企業経営をされるなかで間違いなくこの言葉が出て参ります。というのも政府がデジタルトランスフォーメーションによる経済循環を起そうと今いろいろな施策を検討しているからです。さらに言うならば、これは直近のニュースであります。従来、各地方、都市、スマートシティ化を構想するにあたりデジタルトランスフォーメーションを使って、街をスマート化して行こうという構想であったものが、ここに来まして経済産業省の方から業界別のデジタルトランスフォーメーション構築という政策に着手するとい



う話がありました。つきましては、私ども印刷産業は10年、20年、30年後にも持続可能とするためのキープレーズ、すべてこれが解決するとは敢えて申し上げません。ただし、これを運用することによって私たちの未来が間違いなく繋がっていく。この言葉を本日のメッセージとしてみなさん発信をさせていただきます。この先、印刷産業をつなぐコネクネクストに必要な要件はまさに印刷業界におけるデジタルトランスフォーメーションの実装、実装における各企業の皆様の利益の最適化、ここを目標としたビジョンを、残す任期、半年くらいになりますが、取りまとめをさせていただき、どのようなかたちでデジタルトランスフォーメーションを皆さんが実装されていくのかも含め、年度末に発表をさせていただければと思います。

本日のメッセージ、1つはアドビの特別ライセンスプログラム、そしてこの後の印刷産業を未来につなぐキーワード、印刷産業におけるデジタルトランスフォーメーションの実装、本日は皆さんに発信させていただきたいと思います。

それではこの後、委員会の発表、懇親会、限られた時間ではありますが充実された時間を過ごされますことを心より祈念しまして私からのメッセージとさせていただきます。ありがとうございました。

(文責：編集部)

## 北海道印刷関連業協議会 令和2年新年交礼会

北海道印刷関連業協議会の令和2年新年交礼会が下記により開催される。

日時	令和2年1月8日(水) 17:00
会場	札幌グランドホテル (札幌市中央区北1条西4丁目 電話011-261-3311)
会費	10,000円
参加申込	北海道印刷工業組合ホームページから参加申込書をダウンロードのうえ、申し込みください。 【URL】 <a href="http://www.print.or.jp/event/event20191025.html">http://www.print.or.jp/event/event20191025.html</a>



# 令和2年新年交礼会を1月8日開催

## 北海道印刷関連業協議会役員会

北海道印刷関連業協議会の令和元年度第2回役員会が、10月21日午後5時から札幌市中央区の札幌グランドホテルで理事・監事15人が出席して開催され、令和2年新年交礼会の詳細を決定するとともに各業界の現況について情報交換が行われた。

**役** 員会は、岸会長のあいさつの後、議事に移り、令和2年新年交礼会を1月8日午後5時から札幌グランドホテルで、会費10,000円で開催することを決定した。

つづいて、各業界の現況について情報交換が行われた。

### ▶北海道製本工業組合（岳隆久理事長）

紙の方は一時のように汲々としてはいないと聞いていたので昨年並みに仕事が入ってくるのかと思っていたが、昨年並みに入って来ていないのが現状である。顕著な例が今真っ盛りのカレンダーが、加工方法が変わって単価が安い加工方法に変わってきている。売上は下がり、安い加工方法の部門だけが忙しい。その他も昨年と比べ点数的には間違いなく減っている。北海道も雑誌関係の仕事が減っていて厳しい。

### ▶北海道洋紙代理店会（笹島久義会長）

1～9月の代理店会の出荷額は、93,959トンで月平均10,440トン、前年比で94.5%となっている。これは5年前の2014年と比較すると84.9%ということで残念ながら毎年3%ずつ下がっているのが現状である。93,959トンのうち、主要4品種の上質・A2コート・A3コート・微塗工で61%くらいある。前年比90.3%である。そのうち上質が88.3%、A2コートが80.1%、A3コートが80.4%、微塗工が101.9%ということであるので、90.3%のうち微塗工が牽引している。北洋会の数字は、1～9月が47,303トン、月平均5,256トンで前年比97%である。5年前の2014年に対して73.5%で、年間で5.3%ずつ落ちていく数字である。卸商を通して販売している比率は93,959トンのうち約50%となっている。この数字は他の地区に比べるとかなり高い比率である。道内においては卸商の機能は十分に発揮されている。1～8月の輸入紙の通関率はPPCが40,089トンで月平均524トン、コート紙が1,887トン、月平均234トン、微塗工が2,028トンで月平均254トンである。2,028トンのうち8月に1,419トン入荷されている。決まった案件のため大勢に影響はないと思う。北海道は輸入紙の入荷は若干鈍い。製紙メーカーは過去においてなかなかメンテナンスが出来なかった

ということでトラブル等が現在も起きている。特に西の方で起きている。今は厳しい状況の時より若干確保しやすいと思うがこれから需要期に入るなかで、北海道の方でも影響がでるのかということが懸念されるので、卸商と連携してしっかり手当してほしい。

### ▶北海道印刷インキ同業会（吉野克宏代表幹事）

2019年1～6月の印刷インキ生産量合計は15万8,001トンで前年比96.6%と3.4%減少した。2年前の2017年前比は1.4%減少、昨年2018年は2.5%の減少であったので、年々生産量の減少が加速している。2019年1～6月の分野別生産量は、オフ輪・枚葉などの平版インキ生産量は4万3,523トンで前年比93.3%で6.7%減少した。2018年の前年比が94.7%であったので1.4%減少が加速している。新聞インキ生産量は1万6,211トンで前年比87.3%と12.7%も減少している。2018年の前年比が92.0%であったので4.7%減少が加速している。樹脂凸版（フレキソ）インキ生産量は1万401トンで前年比97.4%と2.6%減少している。2018年の前年比が98.8%であったので1.4%減少が加速している、ダンボール箱の個数は増えているが、印刷面積が減って来ていると想像している。グラビアインキ生産量は6万2,049トンで前年比100.6%で微増となっている。2018年の前年比が100.7%であったので、前年並みを継続している。

### ▶北海道紙器段ボール箱工業組合（守田敏治理事長）

段ボールと一般紙器で組合を運営している。全ての業界で一番悩んでいることが事業承継の問題である。しっかり承継できているところ、あるいは承継する体制になっているところ、逆にどうしようかということも当組合員にも数社ある。事業承継問題をしっかりやっていかないと業界の今後のあり方等にも大きな問題点が発生するような気がする。段ボールは11月半ばで最大需要期が終わるが、一般紙器はまさにこれから最大需要期に入るので、パート、アルバイト、派遣を入れてこの2～3ヵ月をこなそうと例年やっているが、数年前からそういう人材に恵まれない。逆に言うとこれはこれから永遠に続く問題なので機械化しようという話もあるが、私たちの業界は全てが機械化されるわ

けでないで、最終的には人の力を必要とするところが多々ある。これも業界で大きな問題になってくる。段ボールは昨年の数字と見比べて、昨年は9月に大きな震災があって収穫時期にかなりのダメージがあったが、昨年の数字からみると今年は例年通りとなっている。一般紙器はお菓子関係、特にお土産品関係であるので、韓国のいろいろな問題があって外国人の観光客が減少しているのでその部分がマイナスになっている。雑貨関係の化粧箱、食品では10年前までは魚卵関係のギフトが良かったが、数年前から魚卵関係の生産量も落ちて我々紙器も影響を受けている。

### ▶北海道グラフィックコミュニケーションズ 工業組合（杉渕好美理事長）

当組合は構成的にはいろいろな会社が入っている。デザイン関係、元々は製版であった。ホームページ作成の会社、看板の会社、型抜きの子会社の職種の集まりである。全体的には話を聞くとまあまあということである。

### ▶北海道スクリーン・デジタル印刷協同組合 （七條雅文理事長）

組合は14社で構成している。暫く組合員数に大きな変化はない。やっていることは技術研修会が年に1回、それ以外はほとんど親睦会である。仕事の方は毎年若干売上が減少している。売上が伸びている会社は2~3社あるが、7~9月のアンケート調査によると、変わらないが4社、売上増が2社、売上減少が5社となっている。売上が減少していても昨年は利益率が高かったのもそれなりに利益を確保できたというところもある。今年に入って売上減と利益減で何とか経費を賄うだけの売上と利益率で赤字を何とか回避して、黒字で何とか頑張っているような状況である。厳しい状況が続いている。商業関係の仕事がほとんどで、工業関係は1社だけである。工業関係をやっているところは年間を通して安定した売上を確保して、かなりの利益を上げている。商業関係はその日その日のお客さんからの注文をいただいて、今日どのくらい注文をいただけるかの計画的な見通しが殆ど立っていない。

### ▶北海道シール印刷協同組合（有原常貴副理事長）

連合会が年次大会を毎年各地で行っており、今回は滋賀県で今月25日に約280人が参加して開催される。千葉県にタック紙の大手メーカーの工場があり台風による停電で一時出荷できないことがあったが、大手で工場が全国各地に分散していたので供給には特に問題はなかった。元号改正で訂正シールの仕事を期待していたが長期的なアナウンスがあったことが



ら全く発生しなかった。消費税増税に関しても訂正シールの駆け込みの需要も殆ど無かった。タック紙全体のメーカーの出荷量は今年の前半までの動きでは、サーマルタック紙の増加は続いているが、一般のラベルシールは減少傾向にある。北海道のタック紙・ラベル業界は水産関係のラベルの需要の割合が高いので、ここ数年の水産の不漁による加工の減少が影響している。

### ▶ 同（石倉一幸専務理事）

台風・地震の影響は限定的であるが影響があった。消費税増税では需要が期待外れであったので導入後の需要回復を10月、11月に期待している。概ねあまり良い状況ではない。

### ▶富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(株) （畑貴史北海道支店長）

刷版メーカーの自主統計では、刷版の出荷量が対前年比4月105%、5月90%、6月91%、7月100%、8月91%、9月110%となっている。9月の数字は市況が良くてではなく、増税前の買い込みがあると思われる。フィルムは2008年がピークで、それ以降CTPへの移行で落ちている。小ロット・多品種で8年前までは刷版の出荷量は年率2~3%増えていたが、それ以降2~3%出荷量が落ちてきている。今年半年間も97.8%で2.2%のマイナスで9月が増税の関係で伸びたので平均すると3%くらい落ちている。オフセット印刷の会社の仕事量が減っているかということ、オンデマンド・デジタル印刷に変っている分野が増えていると思うので見づらいところがある。

### ▶コニカミノルタジャパン(株)（園部直之北海道 グループリーダー）

台風19号により被災した組合員に全印工連とJAGRAにオンデマンドプリンタの無償貸与の申し出を行っている。4~9月のオンデマンドプリンタの出荷台数は前年比割れになったが、カウンター料金は2%



くらの微増である。カウンター料金は競合他社との関係で毎年4~6%価格が下落してきており、売上の50%がカウンター料金であるので年々厳しい状況になってきている。当社と札幌市が事業提携して、人口減のなかで行政サービス低下を招かないよう2人常駐して札幌市の課題を抽出して、改善提案をする取り組みをしている。

### ▶エム・ビー・エス(株) (山賀義徳札幌支店長)

感圧紙の5社のメーカーの1つで、富士フィルムの100%子会社である。ノーカーボン紙の需要動向は4~9月は前年比103.3%となっていて、改元、消費税増税で前倒しの需要があってノーカーボンの市場としては好調であった。ノーカーボンは毎年4%落ちていくトレンドであったのでこの6ヵ月で元を取ってしまったようなかたちで、この後3月までどのような動きをしていくのか見えていない。最近、PODでのノーカーボン

の印刷の問い合わせが非常に多く、この対応がテーマとなっている。

### ▶(株)SCREEN GPジャパン (山口典彦北海道営業所長)

当社はロールのインクジェットに力を入れている。これまでではフォーム印刷のデジタル版のようなもので通知系の可変のデータを印刷する使い方が多かった。これからは本(book)を作るようにしていく。バーコードなど使って、8,000メートルのロールなかですべての仕事をしていく。在庫レスにする。今までは在庫していて廃棄コストが大変であったので、注文を受けてから作る。ロールの方が瞬発力があり検査装置もやり易い。これまでのデータプリントだけでなく商業印刷、出版にも少しずつインクジェットのデジタル機が入っていく。北海道の市場はCTPも含めて厳しい状況が続いている。

## 北海道産業貢献賞おめでとうございます

令和元年度北海道産業貢献賞の贈呈式が、11月20日午後1時30分から札幌市中央区の京王プラザホテル札幌で開催され、長年にわたり業界の指導・育成に尽力され、業界ならびに本道産業の振興発展に大きく貢献された方々の表彰が行われた。

北海道印刷工業組合から、板倉 清氏が商工鉦業功労者として、栄えある受賞をされた。



板倉 清氏  
北海道印刷工業組合理事・顧問・前理事長  
株式会社アイテックサプライ代表取締役  
札幌支部